

新宮山彦ぐるーぷ第1882回

モノレール架設目録贈呈式

- ◇実施日：平成28年06月17日(金) 14時～15時
- ◇参加者：主岡憲明、山上皓一郎、川島 功、沖崎吉信、玉岡 明。
- ◇場所：新宮信用金庫3階会議室(新宮市大橋通三丁目一四)
(株)カマハラテック・鮎田事業所(紀宝町鮎田二二二六)

設置経緯

新宮信用金庫の井上常務理事から世界遺産奉仕活動応援金(五十万円)の活動対象者について、山彦ぐるーぷ事務局の沖崎氏に相談があり、それでは新宮山彦ぐるーぷへ贈呈して頂きたいと要請したが、以前と異なりお金で無く施設・設備への支援が対象になるとのこと。

昨年、持経宿改築を終え高額な施設・設備が直ぐに思いつかずやむなくあきらめるつもりになっていたところ、井上常務理事から面識のあるモノレール架設会社の社長さんと相談してみようではないかと提起された。

主だった世話人に行仙宿補給路(登山口～浦向道分岐)にモノレールを設置するかも知れないと報告相談があり、その場合当ぐるーぷからも約50万円は負担することになるとのこと。

井上常務理事の紹介で(株)カマハラテック代表取締役・谷 公雄様と沖崎氏が会い、当ぐるーぷ活動状況や設置理由など説明して相談したところ、現地を見ないと判断出来ないいで現地を見て判断して下さることになった。

後日、急遽現地の案内を頼むとの電話が谷社長からあり、架設担当者等が現地に入り測量し、約250mの距離となり架設可能と検分された。帰路に面識のある造林山主・上平一郎様(前下北山村村長)宅に立寄り、了解を得て設置が決まった。

モノレール設置にあたり、森林公団並びに水源涵養保安林作業

許可の申請手続きを行い正式架設になった。

モノレールは4月中に完成し、五月連休中の行仙宿来宿者の対応は、以前に比べて荷上げ(標高差約120m、モノレール約10分、空身歩行30分弱)負担が軽減され、架設して頂いて本当に楽になったと好評である。

新宮信用金庫で目録贈呈式

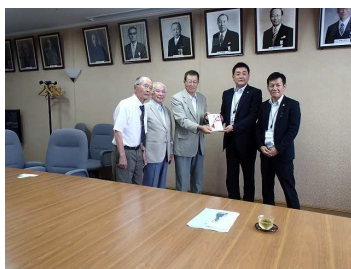
◇新宮信用金庫出席者：常務理事・井上 訓、支店長・中西政貴、部長・和平幸勝。

井上常務理事から新宮山彦ぐるーぷの世界遺産「大峯・奥駈道」の活動を評価して、奉仕活動に役立て頂くために贈呈を決めた経緯説明があり、新宮信用金庫からでなく、行員の毎月積立募金による贈呈であり、募金会の中西支店長と和平部長から新宮山彦ぐるーぷの玉岡相談役・山上副代表の立会いで川島代表が金、五十万円の目録を受領した。行員皆さんの募金であり、本当に有難く頂戴した。

贈呈後、沖崎氏からモノレール設置の経緯と当ぐるーぷ出席者の紹介があり、川島が行仙宿維持管理に多大な効果があったと贈呈の謝辞を述べて贈呈式が終了した。最後に、皆さんにモノレールの見分を兼ねて行仙宿への来宿を勧誘した。



常務理事の選考経緯



和平部長から目録贈呈



沖崎経緯報告と紹介

目録

金伍拾萬円也

新宮しんきん
世界遺産応援募金会

平成二十八年六月十七日

新宮山彦ぐるーぷ
世話人代表 川島 功 殿

㈱カマハラテック鮎田事業所で目録贈呈式

◇(株)カマハラテック；代表取締役・谷 公雄。

◇新宮信用金庫；常務理事・井上 訓、支店長・中西政貴。

新宮信用金庫での贈呈式を終え、三重県にある鮎田事業所(車で約10分弱)を訪れ、谷社長より贈呈目録の読み上げがあり、目録贈呈式は事業所内に在る同機種のモノレール動力車前で行なわれ、とりわけ社長から有難く受領した。

尚、贈呈式には、紀南新聞、熊野新聞、吉野熊野新聞の取材班が同席。

谷社長・目録読上げ



モノレール動力車前で目録贈呈式



目録

一、モノレール一式

行仙宿補給路登山口より浦向道合流
地点迄の架設250Mと動力一式。

右、大峰南山域の環境整備、美化活動と世界遺産
の大峰奥駈道、行仙宿山小屋の維持管理と修験
者、登山者への自然保護思想、美化思想の普及
啓発の為、贈呈します。

平成二十八年六月十七日

新宮市神倉三丁目二八六

株式会社 カマハラテック

代表取締役 谷 公雄

新宮山彦ぐるーぷ

世話人代表 川島 功 殿

「新宮山彦ぐるーぷ」を支援

新宮山彦 世界遺産応援募金会



新宮信用金庫での贈呈式

新宮山彦世界遺産応援募金会は、先日、新宮山彦ぐるーぷ川島勲理事長らへ、モノレール設置記念贈呈式を行いました。

同会は世界遺産として登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の維持・管理、広域のボランティア団体への支援を目的とし、毎年一回寄付行為を実施している。モノレールの設置はモノレール本体と動力機一式をカマハラテックモノレール収納庫建設と終着地点のラットホーム△設置を新宮信用金庫が担当した。そのほかにも小屋の消滅や登山道整備の道具などが贈られている。

同会が贈っている「緑ヶ丘」の行灯籠補修登山口から補道まで約20メートルつなげられた。これまでは山上の小屋に食料を届け、登山客の安全への配慮として、大崎陣の自然環境文化財保護の保全への貢献が目的とする世界遺産維持・管理・広報する団体への支援が、同会が贈呈する無入帳の山小屋「モノレール設置」に対して同会として本声により、団体へ贈呈し、その件を川島さんへ（庶務）金庫へ報告された。



カマハラテックがモノレールを贈呈

当初、新宮山彦世界遺産応援募金会と新宮山彦ぐるーぷ各50万円計100万円の資金で設置することでスタートしたが、以後、谷社長には我々ぐるーぷの活動等の理解度を深められたこと、特にモノレール設置工事中、玉岡相談役が明君のサポートで行仙宿に登られ、帰路下山は転倒防止の為、背中と腰にザイルを巻き明君が後からサポートする姿が、作業員から社長に報告されたことに感銘された様で「100万円は不要、全て寄贈する」の申し出を頂いた。

今回のモノレール設置にあたり、谷社長、井上常務理事、上平一郎様に格段のご理解とご支援を賜わり、又、山彦山彦募金会、(株)カマハラテック従業員の皆様にも厚く御礼申し上げます。

(記 川島)